**（トリハマ貝塚と嶺南の縄文時代）**

**縄文時代の鳥浜貝塚と嶺南地域**

**概要**

縄文時代（およそ紀元前13,000年～紀元前400年）は、土器の発達と、狩猟採集民の生活様式に加えて次第に定住生活が発達したことによって特徴付けられました。福井県南西部の若狭湾沿いにある嶺南地域では、当時の遺跡が60以上発見されています。貝塚として知られるようになった、鳥浜にある先史時代の集落とゴミ捨て場の遺跡の発掘調査では、住居や貯蔵用の穴、縄文時代前半の保存状態の良い遺物と有機質遺物が大量に発見されました。これらの発見は、近くの森、湖、川、海からの豊富な資源を活用した鳥浜の集落の住民たちの生活様式について貴重な洞察をもたらしています。

**もっと詳しく知る**

**鳥浜貝塚の発見と由来**

この貝塚は、若狭町鳥浜の、はす川と川が合流する地域の地下深くで発見されました。冷たい地下水と貝殻からのカルシウムで覆われ、酸化から守られたその遺跡からは、よく保存された遺物が多数発見されました。遺物から判断すると、集落の住民は、季節ごとに手に入る貝類や食べられる植物、その他の食べ物を獲得して加工し、貝殻やその他のゴミを湖の水辺に捨て、それによって次第に貝塚が形成されたと考えられています。

**動植物**

貝塚から出た動植物の遺物は、人々が比較的に恒久的な集落に住んでいたことを示しており、それは縄文時代より前の時代に優勢だった移動性の狩猟採集生活とは対照的です。動植物が豊富な近くの湖や海、森は、一年中食料の入手を確かにしていました。イノシシ、シカ、貝類、ナッツ、ベリーなど、75種以上の食用の植物や動物が貝塚で確認されました。

**人工物**

鳥浜貝塚遺跡では、丸木船、弓、斧の柄、木製の容器などの人工物が発見されました。その中には漆が塗られたものもありました。その他の発見には、よったり組んだりした縄や、植物繊維でできた編みかごの破片、動物の骨でできた針、繊維を柔らかくするために使用されたかもしれない木槌などがありました。また、木や石、牙、鹿角、貝、粘土などの材質で作られた、櫛や髪飾り、イヤリング、ブレスレット、ペンダントなど、さまざまな装飾品が発掘されました。

**土器**

科学的な研究により、鳥浜貝塚の地層から出土した土器は、紀元前11,700年頃から紀元前3,800年頃のものであることが判明しました。紀元前4,300年頃～紀元前3,800年頃の品は、特に、土器の形状とデザインがどのように徐々に変化したかを示す良い例です。鳥浜で発見された土器の多くは、すすや焦げた食べ物の残骸で覆われており、分析の結果、魚介類や植物の調理に使用されたことが判明しました。

**展示品**

鳥浜貝塚から出た土器の膨大なコレクションは、時系列に沿って並べられており、意匠や形状の違いが分かりやすくなっています。その多くは、薄くて口が広く、比較的に胴部が細い、深鉢です。その装飾模様は、鋭利な道具や爪で刻まれました。

丸木舟は、1981年から1982年にかけて発掘された2隻のうちの1隻目です。船体は日本杉の大木を使って作られており、焦がしてその後石器で彫ることによって、中をくり抜いたと考えられます。展示されている縄や布の破片の内、細い２本撚りの縄は、紀元前約9,500年前の地層から発見されたものです。鹿の枝角で作られた掘削道具や石斧やその木製の斧の柄、漁に使われた骨の槍先などは、縄文人の道具の数少ない例です。鳥浜貝塚のさまざまな有機質遺物は良好な状態で、動物や魚の骨、木の実、この場所の名前の由来となった貝殻などが含まれています。